

暦の上では春とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。そして、花粉症の方にはツライ季節の到来です。風邪予防にも、花粉症対策にもマスクが必需品ですね。現在会員登録数 1,630 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 3 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 54

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催、「第 30 回日産 童話と絵本のグランプリ」(平成 25 年度実施)の入賞作品の原画展を開催しています。3 月上旬に予定しています第 31 回(平成 26 年度実施)グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。

日 時: 開催中～3 月 27 日(金) \*ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所: 大阪府立中央図書館 国際児童文学館 (東大阪市荒本)

入場料: 無料

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『太陽の草原を駆けぬけて』 ウーリー・オルレブ/作 母袋夏生/訳

岩波書店 2014 年 12 月 対象年齢: 小学校高学年以上

あらすじ：1941年、ソ連に占領されたポーランドから、ナチス・ドイツの侵攻を恐れてソ連内奥のカザフスタンに避難した6人家族（両親、双子の姉、エリューシャ、弟）が父親の死を経験し、1946年にイスラエルへ移民するまでを、5歳から10歳になるエリューシャという少年を視点に描いた作品。

Y：これまで読んだことのない第二次世界大戦中のユダヤ人の物語でした。

O：ポーランドとウクライナの国境近くの町、コストポルを起点に、イスラム教国のカザフスタンまで旅をして、異国で暮らす「日常」そのものが危険を伴う冒険物語なのですね。

Y：カザフスタンの村でエリューシャは母親から禁止されながらも、村の子どもたちと友だちになり、牛糞で燃料を作ったり、凍っている川で魚釣りをしたりする様子が楽しそうでした。また、お母さんがバラライカという楽器やタロット占いによって4人の子どもたちを食べさせていく様子もたくましさを感じました。

O：エリューシャたちは、父親がスターリンを信じて兵士になったため、カザフスタンでは難民キャンプに入る必要がなく、家で暮らすことができたのは恵まれていたのですが、父親が思想犯として殺されて事態が急変していきます。そのあたりの状況が、子どもたちにも読者にも、よくわからない。

Y：父親の死と同時に、母親は、ロシア人であることをやめ、ポーランド人として姓も変えてイスラエルへ行く決心をしたのです。巻頭の地図をみると大変な長い距離の移動です。

O：新しい伴侶を見つけたお母さんは、孤児のいる施設へ子どもを預け、カフェで働きます。親と子の関係がアジアの国とは違うので、「家族って何？」って、考えてしまいました。

Y：エリューシャはロシア語、カザフ語、ポーランド語、ヘブライ語とさまざまな言語、さまざまな文化の中で、どこでも友だちを見つけてたくましく生きていく様子に、ユダヤ人ゲッターの中で暮らし、強制収容所を生き抜いた著者の子どもへの信頼を感じました。

O：エリューシャが語り手なのですが、わたしは、距離を感じながら、読んだようです。原作には、キブツを出て、一家で暮らすまでの続きがあるのです。キブツは、子育てを社会化して行う実践として、1950～60年代の日本でも論議されていたので、それを作者がどう描いたのか、読みたいと思いました。

\*\*\*\*\*

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 54

\*\*\*\*\*

その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 4

前回は「二ひきのよくばり子グマ」（『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎編 実業之日本社 1964年）の冒頭について確認しましたが、今回は、昨年11月に取り上げた「おはなしを選ぶときの観点」の一つ「次々と何かが起こって聞き手を飽きさせない内容か。（くさりのような展開）」について考えたいと思います。

旅に出かけてから結末の前までは次のような展開になります。

元気よく出かける（喜び）  
森のふちを歩く  
食べ物がなくなる（落胆）  
おなかがぺこぺこで歩くのが苦しくなる（苦しみ）

チーズを見つける（喜び）  
分け方でけんかを始める（怒り）

キツネがやってくる  
キツネに事情を話す（喜び）  
キツネがチーズを分ける（期待と落胆の繰返し）

大きく分けると、歩いているという「動」から止まって事件が起こるという「静」へと展開します。そして、歩いている中でも、元気に歩いているところから、食べ物がなくなるという問題に直面し、苦しみへと気持ちが変化していきます。

ところが、そこで、チーズを見つけ、一転、喜びへと変化します。聞き手がほっとしたとたん、どちらが分けるかでけんかを始めます。これは、お母さんから禁止されていたことを破ることになります。

そこへ、キツネという4人目の登場人物がやってきます。聞き手は、子グマたち同様、救い手の出現にほっとします。ところが、キツネの解決方法には問題があります。子グマたちは、だまされているとも知らず、2つに割ったチーズの大きさが同じかどうかということだけに夢中になって一喜一憂します。子グマの心の中で喜びと落胆が短い時間の中で交互に起こります。幼い子どもは、結末まで子グマと同じ気持ちで、少し大きくなると、子グマたちの一喜一憂を心配しながら見守ります。

このように、この作品の展開部分は、短い中で次々と事件が起こるくさりのような展開になっており、子グマの喜びと苦しみや怒りというネガティブな感情が交互に起こって、そのスピードがどんどん速くなっていきながら結末に向かうという展開になっています。

\*次号は「その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 5」の予定です。  
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

\*\*\*\*\*

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在情報データベース補遺篇〈その4〉

今回、ご紹介するのは以下のサイトです。

● 大阪教育大学附属図書館コレクション

<http://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/tosho/oogata/index.html#gakunai oogata>

今回は、大阪教育大学附属図書館のコレクションのなかから、いくつか特徴的なものをご紹介します。

最初に「石橋文庫」。作家であるとともに、著書『大阪の児童文学』で知られる児童文学研究者・石橋達三氏の旧蔵資料で、児童文学作品及び研究書など、図書 448 冊、雑誌・同人誌等 65 種類が収蔵されています。関西の児童文化史に詳しい氏ならではの資料が多く、『子供と語る』『幼児童話資料』『新童話集団』『機関車』『新児童文学』など、氏も執筆等で関わった雑誌群はとりわけ貴重といえます。

次は「弥吉文庫」です。児童詩教育を中心に、児童文学・児童文化が約 1000 冊と幅広い資料があるのが特徴で、同大学教授を務めた弥吉菅一氏の資料です。未整理というのが残念であり、早い整理と公開が期待されます。

さらに、教員養成系大学としては重要な資料である教科書を多数所蔵しているのも無視できません。幕末の往来物から明治・大正・昭和にかけての教科書が約 12,000 冊あり、〈各時代にわたって学校種別ごと、教科別ごとに幅広く収集〉しており〈教科書の歴史を研究するのに役立つ〉つといます。

そのほか、同大学の卒業生である灰谷健次郎の旧蔵資料（250 冊）や、海外のものでは、ニューベリー賞の受賞作品を含め、1900～1970 年代にアメリカにおいて刊行された英米児童文学の主要作品と一連の諸作品、および絵本を収集した「英米児童文献コレクション」などもあります。

資料の検索は次から行えます。

<http://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/index.html>

※次号は、資料所在情報データベース補遺篇〈その 5〉の予定です。(J)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

2月13日から公開されている、映画「劇場版ムーミン 南の海で楽しいバカンス」を観てきました。

ムーミンの原作者トーベ・ヤンソンさんの生誕 100 周年である 2014 年に、母国フィンランドで製作された長編アニメーションです。原作のコミックスに忠実な絵柄で、手描きで作画されています。原作は白黒ですが、映画ではやさしい落ち着いた感じの色が付けられています。風景や花や植物、建物や家具なども緻密に描かれていて、ムーミンの世界に一気に誘い込まれます。

今回の映画は、ムーミン一家が高級リゾート地にバカンスに訪れ、高貴な一族と勘違いされてホテルのロイヤルスイートに宿泊することになり、そこでいろいろな事件を巻き起こすストーリーです。贅沢な暮らしを満喫するフローレンとムーミンパパ。それに馴染めず高級ホテルにいながらも自分らしい生活をするムーミンとムーミンママ。

ムーミン谷での暮らしとまったく違った状況でも、それぞれキャラクターの個性が際立っていて、子どもの頃に親しんだムーミンたちに再会できたようで懐かしい気持ちになりました。ムーミン谷に戻ってきた一家をスナフキンが出迎える場面には、やっぱりムーミンたちにはムーミン谷がしっくりくるという安心感を覚えました。

ビキニを着たフローレンを見たときの驚いたムーミンのセリフや、ムーミンがプレイボーイに決闘を申し込む場面でのミイの毒舌など、少しブラックなユーモアもありました。また、猫が好きな犬や、船を捨てて逃げ出す海賊など、おもしろいエピソードがたくさん盛り込まれていて、もう一回観て細かいところまで楽しみたいと思いました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● おとなのための絵本ショー2015 絵本劇団Playful

会場参加型、体感型、体験型の新しい絵本の楽しみ方を提案します。

日 時：2月21日（土）午後2時～3時30分

場 所：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区）

入場料：無料

定 員：300人

申込み：不要

主 催：NPO法人 さくら文庫

#### ● 藪内正幸絵本原画展

鳥や動物の羽毛や毛の一本一本を丹念に描き、生涯をかけて動物を描き続けた大阪出身の藪内正幸の絵本の原画を紹介します。

日 時：2月21日（土）～28日（土） 午前10時～午後6時

場 所：吹田市文化会館メイシアター 展示室（吹田市泉町）

入場料：無料

◇ギャラリートーク「藪内正幸の絵本世界」

日 時：2月28日（土） 午前10時／午後2時

お 話：藪内竜太（藪内正幸美術館館長）

定 員：各回30人 申込不要、先着順

主 催：（公財）吹田市文化振興事業団

#### ● ○まる△さんかく□しかくの絵本づくり

親子がそれぞれに、丸、三角、四角のシールを使って、物語を考えながら絵本を作ります。それを親子で交換して、物語をつけていきます。自分のオリジナルが、親（子）の手によって進化を遂げていきます！ちょっと変わった絵本作りをお楽しみください！

日 時：2月28日（土）午後1時～3時30分

場 所：阿波座ライズタワーズ マーク20（大阪市西区江之子島）

講 師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 主任専門員）

対 象：小学生とその保護者

定 員：15組 申込み：必要 参加費：無料

主 催：大阪府立江之子島文化芸術創造センター／enoco、タチヨナ

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

#### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『太陽の草原を駆けぬけて』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.54プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は3月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

#### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

桃太郎、金太郎、浦島太郎といえば、日本の昔話の定番。子どもの頃に幾度となく、そのお話を耳にし、読んでもきた。それぞれが立派な主人公だ。最近、その3人がテレビCMで一緒に登場している。個性的な俳優の絶妙な掛け合いは、いろんなバージョンがあって楽しめる。

昨今、昔話に触れることが少ない子どもたちには、このCMはどのように観えているのだろうか…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---

---